

NEWS RELEASE (2018年6月26日) 取材依頼

鹿児島湾の深海からテッポウエビの新種を発見 ～サツマテッポウエビと命名～

報道機関 各位

平素より本学の報道に関しては大変お世話になっております。以下の記載する鹿児島湾の深海からテッポウエビの新種を発見したことについて取材方よろしくお願いたします。

鹿児島大学水産学部の大富 潤教授と千葉県立中央博物館の駒井智幸主任上席研究員の共同研究により、鹿児島湾(錦江湾)中央部の深海(水深 227m)からテッポウエビ科テッポウエビ属の新種が発見されました。ニュージーランドのマグノリア社から刊行されている動物分類学の専門誌 Zootaxa(ズータクサ)に6月14日付けで記載論文が発表されました。

鹿児島湾では、通称とんとこ網と呼ばれる伝統的な小型底曳網漁業が行われており、ナミクダヒゲエビ *Solenocera melantho* やヒメアマエビ *Plesionika semilaevis* などのエビ類や魚類が漁獲されています。鹿児島大学水産学部の大富 潤教授は、未利用資源の探索とその有効利用に向けて深海性の甲殻類、魚類の分布や生態、魚食普及に関する研究を続けており、その一環として、鹿児島湾における生物多様性についての調査も行ってきました。鹿児島大学水産学部附属練習船「南星丸」を利用した試験底曳網調査により、未知のテッポウエビが水深 200 m を超える深海に生息することが分かりました。そこで、十脚甲殻類の分類学を専門とする千葉県立中央博物館の駒井智幸主任上席研究員との共同研究を行い、その結果、これまで命名されていない未記載種であることが判明しました。そして、新種 *Alpheus longipalma* として命名・記載されました。

大富教授の提案により、和名はサツマテッポウエビとしました。今回発見された新種は鹿児島市の目の前の、鹿児島湾中央部で見つかったもので、エビ類のような比較的よく知られた生物でもいまだに未知の種類が見つかることを示す貴重な例となります。鹿児島湾は目の前にありながら未知なる海ともいえます。

明治維新 150 年で鹿児島が盛り上がる年に、鹿児島湾で新種のエビが発見され、サツマテッポウエビと命名された事実は歴史に刻まれるべきできごとです。学術的な意義のみならず、鹿児島の水産業の活性化にも貢献できる発見、命名だといえます。

【問い合わせ先】

発見の経緯、意義などに関する問い合わせ先:

鹿児島大学水産学部 水産学科 教授 大富 潤 TEL 099-286-4152

E-mail : ohitomi@fish.kagoshima-u.ac.jp

分類学的知見や形態的特徴等に関する問い合わせ先

千葉県立中央博物館 動物学研究科 駒井 智幸 TEL 043-265-3111

E-mail : komai@chiba-muse.or.jp

